

(囀中のせりふ)

○菅丞相道実卿

□判官代輝国

△後室覺寿

□ 最早よお迎の刻限御用意よくば △ 輝国どの何おつしやる 菅丞相の

迎には其許の御家来が先程見へ

請取て帰られたはもふ一時も先の事 □ 是はしたり身が家来に渡したとは

旁 以て心得ず只今鳴た旅宿の鶏八ツに参

迎の約束 仮へ家来が参ればとて刻限の来らぬ先渡したでは済まい船がりの

その間 伯母御に逢すもわが情

今と成て名残をおしみ嶋へやらぬ渡したと夫で済と思ふは女子の鼻元思案 菅

丞相の怨にこそなれ

為にはならじ偽りな申されぞ △ 何の偽り申ませう庭で鳴た鶏の声そこへぞ

つた 迎の衆渡したに違は

ないが請取ぬとおつしやるは合点行ずそれに付て娘の最期聳めがあのみ思ひま

はせばさつきに来たのは贖迎にてはあらざりしが

□ 内のおぼの内の騒動死人の有うは贖迎よも偽りでは有まい讒者共の

仕業ならん一時ちがへば三里のおくれ跡おつかけて取返さん ○ ヤア 判官ま

づ 待れよ □ △ 声は ○ 菅丞相是にあり △ さつき別れし 菅丞相

どぶして此所へ □ ♪ぬけノとした伯母御の偽り暫時の仰天丞相是にましノ  
へでまづは安堵いたしたり見渡したる此場の様子訳も間たし力にも成て進ぜたけ  
れど心にまかせぬ警固

の役目早刻限も移りぬればイザ御立あられよ △ ♪何じや警固の者が戻りしとなハ  
テよい所へ来りしぞうそ

つかぬ覚寿が澄拠是へ通して輝国どのへ見せませふ □ ♪イヤ身が名をかたりし  
迎ひ直に

逢てはあしかるべししので様子きうかがはん